## 膜シンポジウム2017報告

運営委員長　富山大学　中野　実

2017年11月13日（月）・14日（火）の2日間，富山大学黒田講堂にて膜シンポジウム2017を開催致しました．145名の参加者を迎え，口頭33件，ポスター48件の発表がありました．成功裏に終えることができましたことをご報告申し上げるとともに，ご参加頂いた方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます．

膜シンポジウムは年会とは異なり，ひとつの会場で口頭発表を行います．幅広い領域の膜学研究者が，まさに「一堂に」会する特長を活かすため，今回は人工膜と生体膜・境界領域のセッションを1時間ごとに交互に配置しました．実際に，分野の垣根を越えた議論が行われる機会もあり，少しずつながらも，学際的な膜学研究の進展が見られるように感じました．発表時間12分，質疑応答7分の時間を発表者，座長の先生が守って下さったお陰でスムーズな進行ができましたが，短い時間では充分に議論し尽くせない部分もありました．休憩時間を含めたプログラム編成にすべきだったかもしれません．

一方，ポスター発表では，膜シンポジウム恒例のショートプレゼンテーションを今回も実施しました．研究内容を60秒間に上手くまとめて発表されており，プレゼン能力が年々向上しているように感じます．午後のポスター発表でも与えられた55分間全力で説明と議論を繰り広げる姿が見受けられました．学生賞に関しては，選考委員長の吉岡朋久先生（神戸大）と受賞者の皆さんからの報告が本誌に記載されていますのでご参照下さい．

懇親会は大学内のオープンカフェAZAMIにて開催し，60名のご参加を頂きました．寿司，刺身，地酒など，富山の味を堪能しながら，親睦を深めることができました．会長の松山秀人先生（神戸大）からは，国際化を見据えた膜学会の将来について，熱いお言葉を頂戴しました．また，事務局の杉山様が年末をもって退職されることが報告され，新たに担当される渡部様の紹介と四年間膜学会を支えて下さった杉山様への花束の贈呈が行われました．

今回の主題は「膜を創る・知る・操る」でした．「膜を創る・知る」上では各研究者が独自の手法を展開していますが，「操る」ことに関しては，人工膜・生体膜領域それぞれがアイデアを出し合うことで新たな発想の研究が生まれるような気が致しました．このシンポジウムを通じ，分野横断的な研究の発展があることを期待したいです．

富山での開催にあたって，一番の危惧は天候でしたが，前日と初日は幸いにも好天に恵まれ，初日には，10月末から雪化粧した立山連峰を望むこともできました．これもひとえに（私も含め）ご参加頂いた方々の日頃の行いの良さのお陰です．また，運営副委員長の吉岡先生，事務局の杉山様，研究室の池田恵介准教授，中尾裕之助教，学生さんには本当にお世話になりました．

次回の年会（早稲田大学）は第40回，膜シンポジウム（神戸大学）は第30回となります．節目の年を迎える両会議で再びお目にかかれますことを楽しみにしています．

懇親会 会長挨拶
松山秀人先生

懇親会　乾杯
大木和夫先生

懇親会の様子

事務局 杉山さん
大変お世話になりました

事務局 渡部さん
これからお世話になります

運営委員長
閉会挨拶